

【背景】

都農町長からお話を伺った際に、「医療に対する町と家計の負担を減らしたい」とおっしゃっていたのが印象的だった。都農町は高齢化率40%という超高齢社会であり、今後も少子高齢化の進行は止まらないことが予想される。ここから家計・町は今後医療費関連の予算が増加していくことが考えられる。医療費を軽減するためには町民の健康を維持し続けることが最も適切であり、対策は急務である。また都農町はウォーカブルな町を実現することで町民の健康にアプローチすることを目指している。

私たちはその政策に合わせた、ウォーキングと健康の視点から、それぞれの地域の特徴を活かした政策を提案したい。そこで、旧国道10号線沿いの地域は旧国道10号線と商店街から、下浜地区は災害対策から町民の健康にアプローチするためにはどうすれば良いかを考えた。

【中心市街地の現状】

中心市街地の良いところは、住人たちが後継者不足の問題があるということと各々意識できている点が挙げられる。故に、町を活性化しようという意識も強かった。また、個人経営の店が多く都農町の魅力を発信できるのではないかと考える。逆に、改善点として挙げられるのは、旧国道10号線において歩道が整備されておらず、車道と路側帯しかない点である。

実際に歩いてみたところ、歩行者は一人しか見られなかったが、自動車は10台以上通行していた。また、この路側帯の幅では自動車は歩行者を避ける必要があり、夜間は視界が悪いため、非常に危険である。写真にもあるように、路側帯は側溝の蓋やアスファルトのひび割れにより、段差が多く、歩くことには適していない。



↑ 旧国道沿いの花屋（左）と畳屋（右）



↑ 旧国道付近の道



旧国道沿いにある店はどこも代々続いている店が多いが、その多くは後継者不足に悩んでいる

道路のひび割れ等、道路整備が行われておらず、路側帯と車道がはっきり分けられていないことが読み取れる。

【下浜地区の現状】

下浜地区の良いところは児童館や龍雲寺というような地域住民が集まれる憩いの場があり、独自のイベントが行われているところだ。自治体と住民との距離が近いように感じた要因の一つだと考える。

一方で、2011年の東日本大震災では、津波から逃げ切ることができなかった高齢者の命が多く奪われた。下浜地区は、海沿いに位置するため、地震による津波等が起きた際に甚大な被害が生じるのではないかとされている。下浜地区は住民の高齢者割合が高いにも関わらず、自治会会長が変わったことや、コロナ禍になったといった要因から、以前に比べ思うように避難訓練が実施できていない。



↑ 児童館でお弁当配りに並ぶ行列（左）と龍雲寺の行事予定（右）

↓ 避難経路の一部

大人が2人ほど並んで通れるほどの幅であり、高台に繋がる坂が緩く長く続いている。どちらも手すりがついていることが読み取れる。



実際に下浜地区の高台に繋がる避難経路を歩いてみたところ、我々も少し息苦しいと感じる程度の斜面であった。したがって寝たきりの状態や足腰を弱めたことによる車椅子の状態では災害時、一人で逃げることは不可能に近いと推測する。

一方で、厚生労働省は『高齢者においても、歩行など日常生活における身体活動が、寝たきりや死亡を減少させる効果』があると示している。また、65歳以上の日常生活における歩数の目標に現状は全く及んでいないことが分かる（図1）。

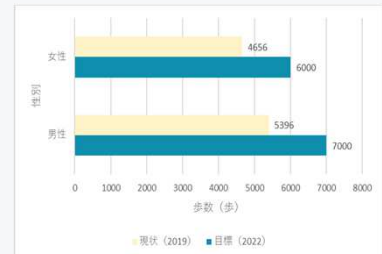
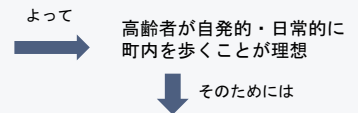


図1：65歳以上における歩数の目標と現状

資料：厚生労働省「令和元年国民健康・栄養調査結果の概要」をもとに作成



歩きたくするような環境づくりを行うべき

【6班が考える解決策】

ウォーカブルを日常に

【概要】

町民が積極的に歩ける環境づくりをする

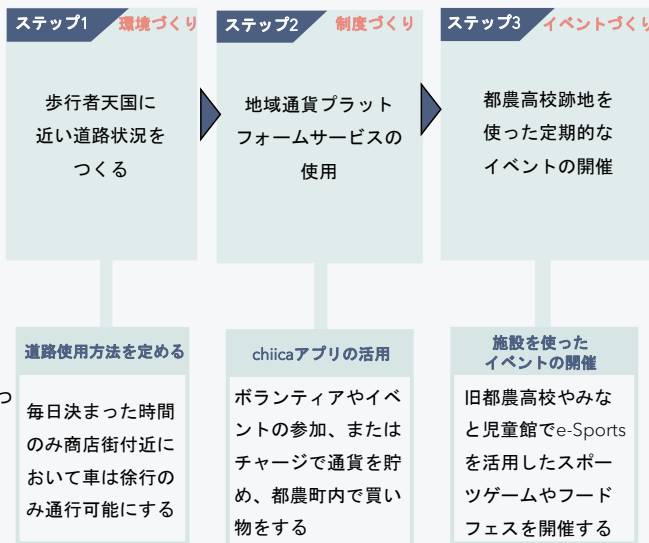
【具体案】

- 毎日商店街付近の道路を決まった時間帯だけ車は徐行のみ通行可能にする
- 都農町内限定の地域通貨を利用する
- 定期的に都農高校跡地を使ったイベントを開催する（旧都農高校やみなと児童館でのe-Sportsやフードフェス等）

【効果】

- 町民が歩くことで運動量が増え、健康になる
⇒町・家計の医療費負担が軽減する
- 町内の道や施設について詳しくなり、災害時の避難に役立つ
⇒災害時の避難に役立つ
- 交流機会が増える
⇒地域住民のまちづくりに対するやる気の増加

町民が積極的に歩ける環境づくり



増

町民の交流
運動量
町内の施設の認知度

実現のために必要なこと

- ◆ 大多数が納得できる道路使用方法の設定・その認知度の向上
- ◆ chiicaアプリについて行政と住民・店が深く理解し、幅広く活用する
- ◆ 旧都農高校や児童館といった施設でイベントを開催できるように設備を整えたり、実行者を決めたりする

【参考文献】

1) 住まいインデックス, “児湯郡都農町の家計データ”
https://lifefullhomes-index.jp/info/money-data/household/miyazaki-pref/koyu_tsuno-city/ 2023年1月22日

2) 日本経済新聞, “ウォーカブル推進都市とは 全国328、国が経費半額補助”
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC164ZM0W2A910C200000/> 2023年1月22日

3) 厚生労働省, “健康日本21（身体活動・運動）”
<https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko2111/b2.html> 2022年1月26日

4) 厚生労働省, “令和元年国民健康・栄養調査結果の概要” 2022年1月26日
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000687163.pdf>